

義務教育学校の設置に関する検討委員会だより ④

高谷中学校ブロック 義務教育学校の設置に関する検討委員会

第4回検討委員会の概要をお知らせいたします。

- 1 日 時 令和2年9月12日（土） 13時30分～15時30分
- 2 会 場 信篤公民館
- 3 構 成 ・委員長：大学教授
(19名) ・委 員：各学校（高谷中・信篤小・二俣小）の学校運営協議会代表
- 4 内 容 ・主に「中間報告会」の報告と、「義務教育学校の設置」及び「二俣小学校の移転」についての協議を行いました。
- 5 説明事項及び協議内容

※ 教育委員会の説明事項は概要を記載しています。「会議資料」をホームページに掲載していますので、詳しくは、そちらをご覧ください。

【教育委員会⇒分野別情報「学校教育・学校施設」⇒義務教育学校の設置に関する検討委員会】

※ 協議の内容は、意見等を出来るだけ詳しく記載し、検討委員会の様子をお伝えすることとしています。

(1) 義務教育学校の設置に関する検討の中間報告会について【実施日：7月28日（火）・8月1日（土）】

・会場：信篤公民館 ・参加者数：43名（2日間の合計）

項目	質問・意見の概要
○スクールバス・コミュニティバスについて	・バスのルートについて、保護者などの意見を反映して決めてほしい。 ・バスが走る時間帯や運行回数、夏休み等の長期休業の対応等、具体的に示してほしい。
○通学路の危険性について	・今の通学路の整備をしてほしい。 ・バスがあるから解決ではなく、歩いてでも行けるように整備が必要。 ・周辺環境の改善が必要。
○二俣小学校の移転後の学校運営について	・小学生と中学生が一緒になることに不安がある。 ・教科担任制の具体的な方法を知りたい。 ・教科担任制を導入することについて問題点はないのか。 ・クラブ活動や部活動はどうなるのか。 ・信篤小との分離型では、教育効果やメリットが減ってしまうのではないのか。 ・分離型ではリモートなどのシステムを導入するなど、最善の方法を検討して欲しい。 ・二俣小と信篤小が一体になる方がいいのではないのか。 ・小学5年生への課題について知りたい。 ・二俣小で一貫校はできないのか。
○学習について	・他の学区から入ってくる子供の学習への不安。 ・義務教育学校の特例(先取り授業など)はできるのか。
○具体的なスケジュールについて	・二俣小を高谷中に移転してから、一体化するまでのスケジュールを示してほしい。 ・塩浜学園が開校するまでのスケジュールを教えて欲しい。
○校舎について	・高谷中に移転した際にできる校舎はプレハブか。 ・一体型になったときの校舎の場所はどこか。 ・3校とは別の場所に一貫校をつくる考えはあるのか。 ・中規模の一貫校を2つ作る案はないのか。
○街づくりについて	・土地計画などの問題はどうか。
○学区について	・市を跨いだ学区の選択はできないか。 ・他の学区から入ってくる子への対応はあるのか。
○保護者等の意見の反映について	・意見を吸い上げたら、しっかりと反映して欲しい。 ・意見に対する回答が欲しい。
○その他	・避難所としての機能はどうか。 ・自転車通学は検討しているのか。 ・マイカーでの送迎は可能なのか。

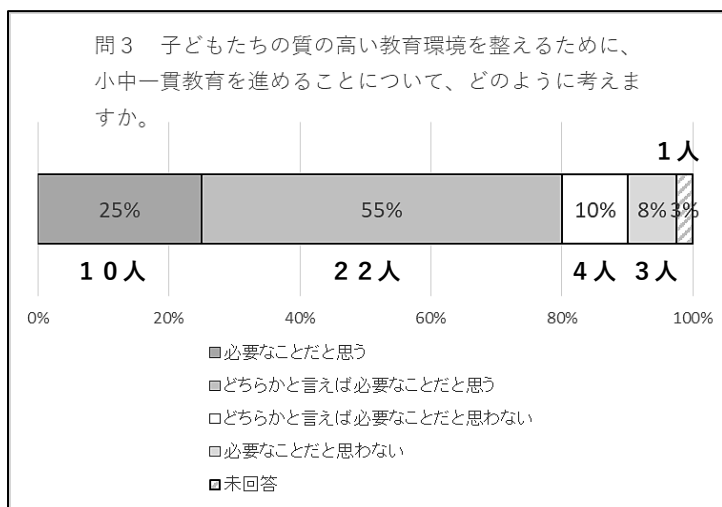
(2) 小中一貫教育の推進・義務教育学校の設置について

① 説明事項：小中一貫教育・義務教育学校の設置に係るアンケート結果について

※ アンケート結果の詳細は、ホームページの「別冊資料」に掲載しています。

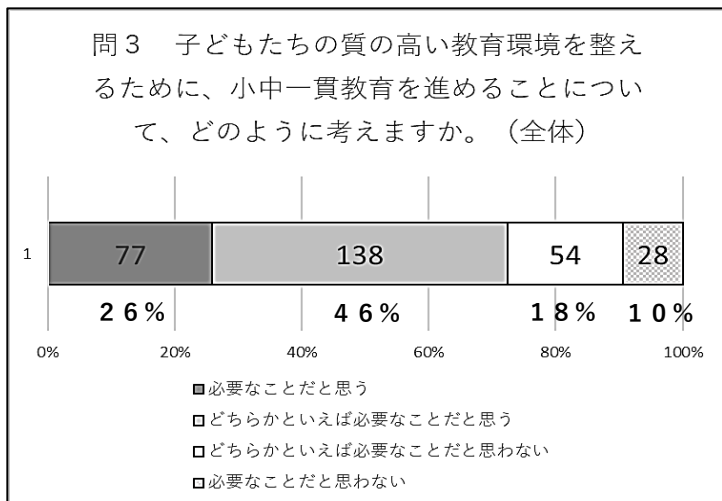
ア 中間報告会で実施したアンケート結果

(回答数 40 件／参加人数 43 名)



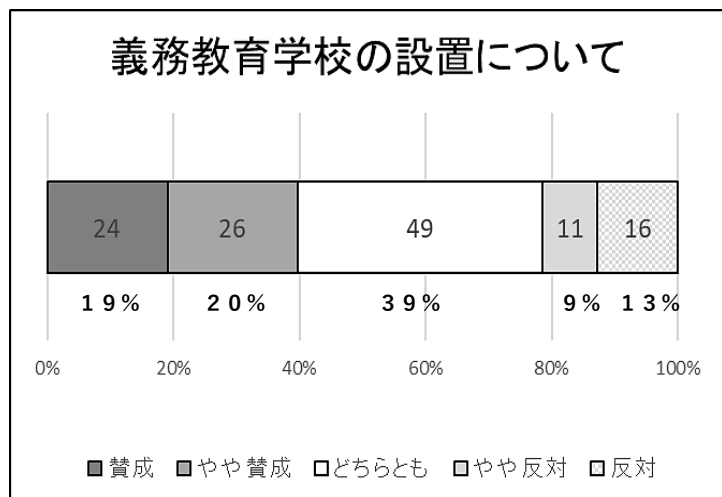
イ 教育委員会アンケート結果

(回答数 297 件／配布家庭数約 1,700 件)



ウ 二俣小学校学校運営協議会アンケート結果

(回答数 126 件／配布数 184 件)



② 説明事項：小中一貫教育・義務教育学校の設置に係る今後の検討の方向について

- ・義務教育学校の設置に関する方針が示すように、これからの教育には、小中一貫教育推進が必要であること。また、市内全体で推進を図る必要があること。
- ・小学校高学年への教科担任制の導入など、小中の連続性の強化は、国の方向性でもあること。
- ・中間報告会で実施したアンケート結果では 80%以上が、「必要」「どちらかといえば必要」と答えており、設置に関する理解が図られていること。特に、今後、関わりの大きくなる就学前児童の保護者の理解が高いこと。
- ・二俣小学校学校運営協議会アンケートでは、「どちらとも言えない」を除くと、肯定的に捉えている割合が高いこと。

○検討の方向

- ・高谷中学校ブロックでは、将来的に高谷中学校、信篤小学校、二俣小学校による義務教育学校を設置する方向で検討を進める。

●設置の推進に当たって留意すべき事項

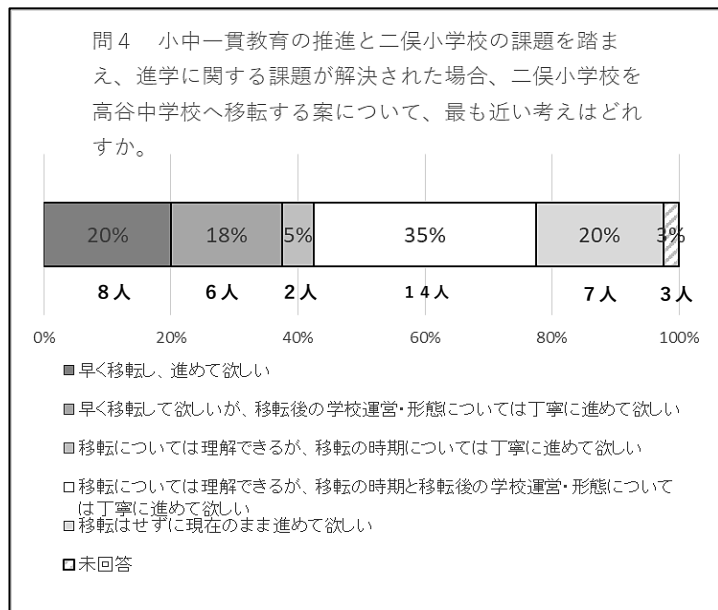
- ・二俣小学校学校運営協議会アンケートの「どちらとも言えない」の主な理由では、「一貫校の経験がないのでよくわからない」「メリットやデメリットをもっと知りたい」といった意見が多くあったことから、義務教育学校の設置にあたっては、今後もより具体的で丁寧な説明が必要である。

(3) 二俣小学校の移転について

① 説明事項：二俣小学校の移転に係るアンケート結果について

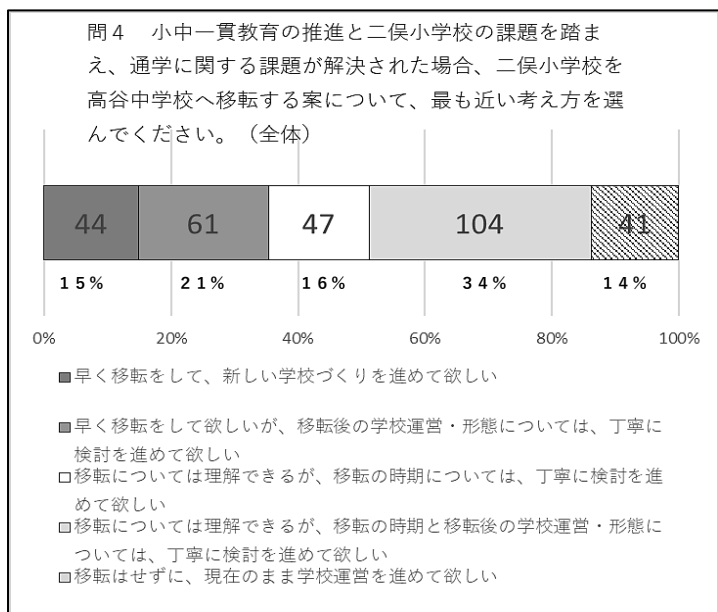
ア 中間報告会で実施したアンケート結果

(回答数 40 件／参加人数 43 名)



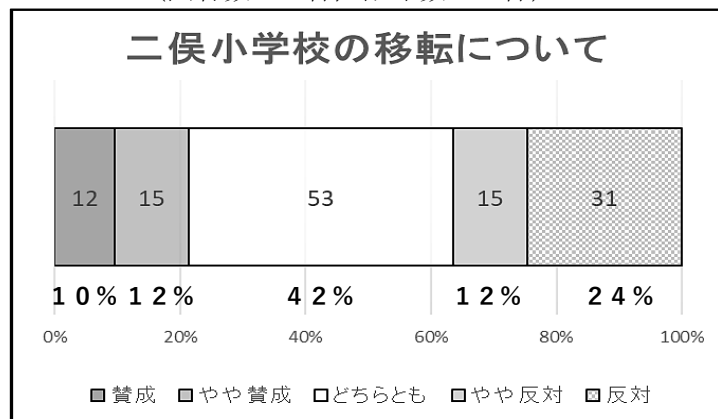
イ 教育委員会アンケート結果

(回答数 297 件／配布家庭数約 1,700 件)



ウ 二俣小学校学校運営協議会アンケート結果

(回答数 126 件／配布数 184 件)



② 説明事項：二俣小学校の移転に係る今後の検討の方向について

- ・教育委員会アンケートから「早く移転を進めてほしい」「早く移転をして欲しいが、移転後の学校運営・形態については丁寧に検討を進めて欲しい」「移転は理解できるが、移転の時期と移転後の学校運営・形態については丁寧に検討を進めて欲しい」と回答した割合が約 85%であり、移転の理由や背景については概ね理解が図られている。
- ・就学前の保護者からは、「子どもたちに負担をかけないように早く進めて欲しい」という意見が多くあった。
- ・移転時期や移転後の学校運営・形態については、丁寧に検討を進めて欲しいと考えている保護者は、教育委員会アンケートで 70%以上おり、二俣小学校学校運営協議会のアンケートでも、「どちらともいえない」と回答している保護者が約 40%以上いる。
- ・教育委員会アンケートの「移転しないで欲しい」の主な理由には「通学に関する課題」が圧倒的に多く、具体的にどのように解決するのかを知りたいと考えている保護者が大多数であった。
- ・二俣小学校学校運営協議会アンケートでは、「通学に関する課題が示されていないこと」「バスの具体的な案が示されていないこと」などが、「反対」「やや反対」の主な理由となっている。

○移転の時期や移転後の学校運営・形態など、移転に係る具体案を示す必要がある。

○通学に関する課題の解決は必須であり、具体的な案を示す必要がある。

○検討の方向

- ・二俣小学校の移転については、継続して協議をする必要があります。
- ・今後、通学等の課題の解決策や移転の時期、移転後の形態など、移転に係る具体案を検討委員会で検討し、改めて保護者に示して広く意見を聞き、その意見踏まえて検討委員会で協議していくこととします。
- ・具体的な方向性については、年度内を目途に示せるよう、検討をすすめます。

(4) 協議の内容 (○：委員長及び委員 ●：事務局)

※協議の内容は、意見等を出来るだけ詳しく記載し、検討委員会の様子をお伝えすることとしています。

- 資料の「高谷中学校ブロックの指定校変更の現状」に、信篤小学校、二俣小学校、高谷中学校の児童数と学級数のデータがあります。これを全部計算してみると、大体 44 学級ぐらい、多い時には 48 学級ぐらいになります。市川市では、学級数を 24～36 ぐらいにするという方針があったと思います。また国の標準学級数でも、18 から 27 ぐらいが良いということが示されています。信篤小、二俣小、高谷中の合計のクラス数が 43 と言うのは、市川市の方針からも外れています。また最初に説明していただいた資料には、小規模校ほど小中一貫体制をとった効果が大きいということが報告されています。ということは、市がつくった方針より更にクラス数の大きな小中一貫体制はあり得ないという事は明らかです。二俣小と高谷中だけ小中一貫をやって、信篤小をそのままにするという選択肢もあり得ないです。そういう事を考えると、信篤小、二俣小、高谷中を一体とした小中一貫体制はあり得ないです。先ほどの説明の中では、これから 20 年くらいすると児童生徒が減ってくるとありました。減ってくるのであれば、その時点で考えれば良いのであって、今どうするかと決めるのに、信篤小と二俣小と高谷中を一体とした小中一貫体制はあり得ないというのが私の結論です。
- 市の適正規模・適正配置の方針では、12 学級から 18 学級を小・中学校の適正規模としています。義務教育学校については、方針の中では明確に数を示していませんので、今言われたように足した数を「適正」にするということは考えられます。それをさらに超えるという事ですので、次回に具体案を出す中で、ご検討いただきたいと思います。中学校が小規模化しているところについては効果があると考えていますが、一体型校舎で難しい場合には、隣接型、併設型も踏まえながら、一貫教育の推進について取り組んでまいりたいと考えています。
- 信篤小学校、二俣小学校、高谷中学校を一体とした小中一貫体制はあり得ないと言いましたが、それを二つに分けて、二つの小中一貫体制をつくるのであれば、それは可能だと思います。塩浜地区の状況を見たら、それと同じような状況になっています。それを良いのだと推奨しているのですから、高谷中の一部と二俣小学校の一部を一体としてやると、素晴らしいことだと思います。
- 教育委員会アンケートの回答が 297、配付が 1,700 です。これですと、サンプルとして大体この傾向で行くと判断してよろしいのでしょうか。もう一つは、二俣小学校の学校運営協議会のアンケートが出ていますが、これも約 126 です。このサンプルで大体間違いないというのでしたら、こういう方向性で良いのではないかと思います。
- 1,700 件は、家庭数で全ての学校に配付をさせて頂きました。但し、幼稚園・保育園については、このブロックの小学校に上がる数が分かりませんので、全幼稚園・保育園の園児数で配っています。それがおよそ 600 から 700 ほどありますから、1,700 という数字はかなり高い数字になっていて、実質はそれよりもっと低いです。1,700 のうちの 297 ですと 20%弱になりますが、それが有効かどうかを調べましたところ、それで大丈夫だというものもあれば、もう少しある方が良いというものなど色々あり、判断が付きませんでした。二俣小学校の運営協議会の 126 という数字は、ほぼ 7 割になります。
- 統計的な調査をやっていると、17%あるいは 20%、30%のどれが良いのかは、なかなか判定しにくいのです。パーセントで言いますと、「非常に良い」と「かなり良い」を合わせて 7 割を超えると、統計的に非常に信頼があるとされています。
- 以前、塩浜学園に皆さんで見に行ける状況をつくって頂ける話も出ましたが、今回はコロナ禍という事もありまして、今後どのような視察をさせて頂けるのか、もしくは動画等で見せて頂くのか検討して下さい。もう 1 点は、同じような規模の、これは近隣ではなく県外だと思うのですが、そのような場所にも視察に行けるのか、それぞれの資料をもっと詳しく丁寧に細かく見せて頂くことが出来るのか、ということをお伝えしたいと思います。
- 塩浜学園の視察については、新校舎も出来たので、行って頂きたいと思います。コロナの状況にもよりますが、次回の検討委員会までの間に調整が整いましたら、皆さんに行っていただきたいという事を、本日の最後にご提案するところでした。併せまして、同じような規模のところに行けるかという事については、市川市以外の学校になりますので、相手側と相談してみないと分かりません。資料につきましては、大槌町の資料を第 2 回の資料に載せさせて頂いたのですが、それ以外にもあるという事ですので、もう一度同じような規模の所を調べて、ご提示させて頂きます。
- ただ行くだけではなく、向こうの保護者の方たちと交流できるチャンスを頂けると嬉しいのですが。
- 実際に運営に関わった地域の方と、見学の際にお話しすることが出来るよう、連絡を取っているところです。
- 塩浜の場合も、議論をリードしたのは保護者とコミュニティの人たち、自治会の人たちでした。特に PTA に関わっている保護者が良く勉強をして、議論をリードしました。そして激しい議論を経て、その上で初めて皆の心が一つになって、新しいものをつくることに繋がったのです。良い機会になるように調整をお願いします。
- アンケートの結果を見ますと、「どちらとも言えない」というパーセンテージが未だ少し多い気がします。大変だとは思いますが、「どちらとも言えない」数字をもう少し低くするような努力をお願いしたいと思います。どんな事業をやっても、「どちらとも言えない」というパーセンテージが多いと、その人がどちらに傾くかによって傾向が変わってきてしまうのです。このパーセンテージはちょっと多い気がします。塩浜学園に見学に行くといったことも一つの方法だと思いますが、各学校で、やはり父兄の方に集まって頂いて、徹底的に問題点を出して頂いて、不安な点を出して頂いて、はっきり分からないというパーセンテージを少しでも減らすような努力をしていただきたいと思います。それからもう 1 点ですが、通学路の危険性についてというところに、「バスがあるから解決ではなく、歩いてでも行けるように整備が必要」とあります。危険性については、バスではなく、通学路の整備を是非検討してもらわないと、これはなかなか賛成が得られないのではないかと思います。バスがあるからいいじゃないかという事ではなく、やはり通学路が整備されて、それでバス通学だろうと思うのです。

- 「どちらとも言えない」という二俣小学校運営協議会で出して頂いた意見の理由を見て頂きますと、「具体的なものがないから、どちらとも言えない」という意見がとても多いです。やはり具体的にどのようにするかという事をしっかりとお示ししていないからこのような数字になっているので、次回以降はしっかりとこちらで案をつくって、皆様に検討していただきたいと思います。二つ目の通学路の危険性ですが、中間報告会に来ていただいた方からも言われています。ですから、道路に関する部署と一緒に、通学路の危険性をどうにか解決できる方策を考えていきたいと思っています。8月の初めには大きな事故があったと、二俣小から報告を受けました。それを受けて早くやらなければならないと考えています。
- 歩いている子供たちの目線で、本当に安心・安全なのかという事を確かめる、あるいはその整備を今からでも着手しないといけないと思います。私も実際に行きました。やはり通学路としては危険だと思いました。バス停が出来ても、そのバス停に来るまでの道のりについて、本当に子供たちが歩いて行ける安全性があるのか、十分に注意を払わなければいけないと思いながら確認をしました。ぜひ持ち帰ってもらいたいと思います。
- アンケートの中で、「実施するなら早い方が良い」という意見もあるのですが、二俣小が高谷中と一緒に小中一貫校になった場合の施設は空き教室で賄えるのか、将来的に一つの建物にするために、受け入れとしてプレハブを建てるのか、そのようなことについて具体的な案を出して頂きたいです。案が3つあったと思うのですが、信篤小に1年生から4年生までが入った場合、建て増しすることなく校舎が使えるのか、使えない場合はどのようにするかといった例を出して頂けると、保護者としても多分、「受け入れのキャパはあるのだな」とか、「ちょっとプレハブになっちゃうのかな」とか、そういったことがだんだんと出てくるので、細かいようですけれどもそういったことも必要だと思います。
- 提案をするプロセス、考えるときに必要なことは、このメンバーで、例えば二俣小のことであれば、二俣小の委員の方に声をかけて頂いて、ここはもっと修正をした方が良いのではないかと、そのような細やかなコミュニケーションを通じて具体案を出した方が良いのではないかと思います。
- アンケート結果から、保護者の皆さんが心配していることが本当に良く分かります。移転の時期や移転後の学校運営形態などを心配されている方が多いということも分かりました。その学校運営について、例えば一貫校になる途中のプロセスで、校長先生はどのようになるのか、小中一貫で1人になるのか、小学校の資格を持っている先生と中学校の資格を持っている先生との職員室の関係はどうか、そういったこともちょっと分かると、方向性が出てくると思いました。
- 塩浜学園のメリットが書いてあると思うのですが、塩浜学園は確か9学年で350～360人しかいなかったと思うのです。その規模と高谷中学校ブロックの小中一貫校では、全く規模が違うわけです。各学年1～2クラスという、今の二俣小学校みたいな感じで、非常に小規模だと思うのです。場所は別として、高谷中学校ブロックで義務教育学校を2校つくるとか、そういう方向性は無理ですか。私としては、学校規模が大きすぎるという事が非常に心配です。あとはやはり学校運営協議会の方で通学路の不安がすごく出ています。反対意見の方では、通学路に関してのものがすごく多かったのです。この具体例を細かく示して頂きたいという事をよろしく願いいたします。
- 学校規模につきましても、通学路につきましても、次回みなさんが議論できるような資料をお持ちして、そこで皆さんの議論を踏まえながら色々と考えていきたいと思っています。
- この辺に住んでいる方は、結構六中を選ばれる方も多くて、一貫になってしまうと、信篤小から六中を選ぶ選択肢が狭まってしまうのではないかと、父兄からのご質問で受けたことがあります。やはり、あまりにも規模が大きすぎるのではないかと思います。信篤小もピーク時には1,000人近くおりましたが、その時は校舎の狭さですとか、色々支障をきたしていました。是非、もう一度規模的なものを検討いただいた方がよろしいかと思います。
- 規模については、どのように議論を進めていきますか。
- 私たちの方で案を複数出して、それぞれの良いところを足しながら、解決の図られる案としてまとめていきたいと思っています。塩浜学園の場合は小規模でやっていますが、東京の有明西学園や、近隣県では学年で10クラスになるようなところもあると聞いていますので、全国的な事例を踏まえて、具体的な案をお出ししたいと思っています。
- 私は、京都市にあるコミュニティ・スクール、小中一貫教育の調査に関わってきました。その小学校と言うのは、京都の中でも大変に大きい学校でして、御所南小学校と高倉小学校という伝統のある学校です。そこと京都市立御池中学校が一貫教育をやったわけです。そこはドーナツ減少になって人口減になったのですが、今では学級数が大変に増えました。もちろん公立ですが、その学校に入るために、マンションのチラシでも「ここは小中一貫校の学区です」と書かれていたりして、大変に評価の高いところです。最初は一貫校だから面倒をよく見てくれるのではないかと、メンタル面で手厚く見てほしいといった子供たちが多く来たと聞いております。何よりも、先生方の意識改革と、コミュニティがどれだけ支えるかによって、学校の成功度が決まるのではないかと、校長のインタビューを聞いて思いました。規模が小さければ小さいなりに一貫校の教育効果を高めるにはどうしたら良いのか、規模が大きければ大きいことに応じて、義務教育学校、一貫教育をどうしたら良いのか、それがまさしく検討すべき課題だと思っています。
- 1点目ですが、二俣小学校の移転についてというVTRに小規模校の課題と書いてありました。小規模校の課題は良いのですが、ビデオの一環で見ていくと、二俣小の課題あるいは高谷中の課題として読み取れてしまうのです。そこに上がっている課題は二俣小では全くありません。「小規模校だからできること、小規模校でしかできないこと」を学校運営のひとつとして挙げています。その一つとして2月に6年生と校長室給食と言う取組をしています。6年生4～5人に校長室に来てもらって、給食を食べながら、二俣小での思い出、高谷中に行った時にどんな部活に入りたいのか、将来の夢とか、そういった話をするのは、小規模校でしかできないことです。このような小規模校の良さが全く挙がっていないです。やはり良さと悪さを両方挙げてもらわないと、見てい

る人が誤解をします。よろしくお願いします。2つ目は、先ほどから挙がっている交通事故、学区の通学路の安全性についてです。先ほどお話がありましたように、この夏休みに市内で唯一、二俣小学校の通学路で交通事故がありました。自治会など地域の方々にすごく心配をさせていただきました。市の、道路安全課、公園緑地課、保健体育課の方々と一緒に現場を見に行って、看板をつくってくれたり、街路樹を何本か切って見通しを良くしてくれたりしてくれました。大変ありがたく思っています。通学路の安全性はアンケートにも出ていますが、例えば二俣歩道橋、ぐるぐる歩道橋と言っていますが、あれは相当前から改善の要望を出しています。でも全く改善がない。相当前から学校で要望を出しているという事は記録に残っています。ですから、ちょっと直したから終わりだという事ではなく、本気で通学路の安全を考えてほしいです。二俣歩道橋を渡すのであれば、きちんとしたものを整備してほしい。次に3点目です。二俣小学校の移転だけを考えるのであれば、二俣小学校学区の北側に土地を買って校舎を造れば良いです。ただ、義務教育学校にしていくという話になった時に、二俣小学校が高谷中学校に移転することによって、3校とも不幸になる部分がたくさん出てきます。まず、二俣小学校は遠くなる。高谷中学校はグラウンドが狭くなる。校舎だけではなく給食室もつくらなくてははいけないし、遊具、土俵など、小学校に必要なものを全部高谷中学校につくらなくてははいけない。そうするとグラウンドが狭くなります。それから信篤小学校についても、一貫校にすると信篤小学校で授業をするために、中学校の先生が信篤小学校まで往復しなくてははいけません。そうすると高谷中学校の先生も大変ですし、信篤小学校もカリキュラムをつくるのは大変だと思います。だから一貫校にするのであれば、3校同時に最終形でやってもらいたいと思います。この議論で「一貫校を3校でやります」というのではなく、「土地が確保できました、ハコができました、中身もできました」というところでやってほしいです。3校一緒の一貫校にしましょうという話になって、新しい校舎をつくりますということが決まっても、何かの関係でそれが出来なくなり、一貫校だけ残り、今の校舎でやってくれというようなこともあり得ると思います。ですから、やるのだったら一斉にやった方が良くと思います。

○色々なお話がありましたが、先ほどは小規模校のモデルだけ指摘をしたわけではないと思います。3番目の意見については、最終形の方が私も良いと思いますが、そこに至るまでの議論は丁寧に尽くしていく必要があると思います。

●議論については、「こういう教育をするから、こういった校舎が必要だ」という議論があって初めて計画が出来るので、やはり議論は早めに進めていく必要があると考えています。私たちの提案については、学校を移すか移さないかと言う具体的なところに目が行ってしまいがちですが、将来的にこの高谷中ブロックに住んでいる子供たちの教育をどうしようかということを提案しています。これからは小中一貫教育が必要ですので、小中一貫教育の出来る環境を整えるためにどうしようかと提案しています。その一つとして、二俣小学校の移転についてご提案しているものです。小規模校は小規模校なりに良いところはあります。小規模校だから悪いのではないのです。しかし、小規模校は学校の先生が少なくなることによって、子供たちの学習形態などに影響があると言われていています。小規模校が悪いのではなく、先生の数が少なくなることによる課題と我々は捉えています。高谷中学校ブロックの将来に責任を持てるのは地域と行政しかないと思っています。保護者の方は地域に戻りますので、地域に含めさせていただきます。行政は計画という形で将来につないでいきます。だからこそこういった協議が必要であって、高谷中ブロックのお子さんに責任を持てる地域の方々が話し合って、より良い教育環境を整えられるような議論が出来ればと思っています。皆さんの意見は、我々が真摯に承り、次の具体案に生かしてまいりたいと思います。

○教育委員会もパーフェクトな話をしている訳ではないのです。必ず議論の中で「こういうところがいていないのではないかな」という点があるのですが、それは直接ここに出して頂ければよいのであって、追及する場ではないので、話すことによって良い案が出来る方向で進めていきたいと思っています。

○信篤小は小規模に対して大規模校です。大規模校の課題もありますが、その課題解決のために小中一貫校にするというスタンスではなく、小中一貫校は「こういう良さがある」、そして高谷中ブロックの子供たちの将来を考えてという教育委員会の説明、それはブレてはいけないと思います。資料に「信篤小保護者としては、正直とばかりで、何のメリットも感じられない。塩浜の成功は小規模校ゆえのものなのでは？児童数が多いと、学年を越えたふれあいや、きめ細かな指導は難しいのでは。小中一貫で小1から9年間いじめにあい続けたらとの心配もある。学習の進度が違うので、他の中学には行けず、高校受験が不安。今までの説明全てが『二俣小のため』で、信篤小はどうでもいいが立地的に仕方なく…という感じを受ける。」という意見があります。小中一貫校はどんなところが良いのかという理論的なことはいくつか聞いているのですが、1,000人を超える大規模校の小中一貫校が本当に良いのか、というところを是非次回お示し頂かないと、この質問は消えないと思います。信篤小の保護者は中学校の進学も含めて心配しています。ブレてはいけないのは、小中一貫校が本当にうちの地区にとって良いのですかということと、具体的なビジョンはどのようになるのですかということです。次回に是非お示し頂ければと思います。

○やはり市川市の教育、子供たちの教育をどのようにより良くしていくか、今の教育課題を改善できる教育環境をどのようにつくっていくかという立場から、小中一貫校が、例えば大規模校の信篤小にとってどういう意義があるのかを、逆に色々と提案してほしいと思います。それはこの場でなくても、直接教育委員会に提言していただければと思います。また、小規模校についても同じです。よろしくお願いします。

○小中一貫校の良いところは先ほどビデオにもあったと思いますが、中学校でも自己肯定感が低い子がとても多いです。その中で、小さい子の面倒を見たりすることは、中学生にとっても小学生にとってもメリットはあると思います。避難訓練の写真も出ていましたが、地域を考えたときに、ひとつの所で上の子が小さい子を見てあげるなどの中学生の力があると思います。そういう良い点もあると思います。それから、中学校は部活動がとても盛んです。二俣小を仮に建てるとすると敷地が取られてしまうので、子供たちの活動する場所の保障などをどうするかと考えました。通学路についてもたくさん出ていますが、仮に体調不良になって早退する時に、昼間はどうやって子供たちを家庭に帰すのかといったことがあります。また高谷中は裏門から通ってくる生徒と正門

から通ってくる生徒がいます。正門から来る子供たちは、車の排気ガスがひどいところを通ってきます。また裏側ですと、6月下旬ぐらいになると雑草が生い茂ってしまいます。そういった状況では、暗くなった時に痴漢が出たり不審者が出たりして、そこに小学生も入ってくると、とても心配だと考えていました。教師が小学校に教えに行くにしても、1時間の授業に行くのに行きと帰りを考えると、かなりの時間のロスになります。そのあたりを次回も課題として挙げて頂ければと思います。

○先ほど京都でどういう一貫校をやっているかという例を話しました。2校の小学校と1つの中学校、この中学校は御池中学という伝統校です。ここでは5～6年生が朝から中学校に行くのです。そして給食は各学校からそれぞれ持ってきます。そういう手間を掛けていますが、小学校の5～6年生に中学校の教科担任の授業を組んで一貫をやるという取組なんです。皆さんは、小中一貫校にしたときに、どういう問題点、課題があるのか、そのことを大変丁寧に、具体的な事例に即して出して頂いていると思います。ですから、具体的な提案を我々の方で出来るような話を進めていきましょう。今のままですと、課題ばかり挙げることになってしまいます。しかし、義務教育学校の良さや全国の小中学校に関わる大きな教育改革、教育の質の転換について、どのように具体化したらよいのか、これは学校側だけでなく教育委員会と一緒に考えなくてはならない課題でもあるわけです。我々がそういうことも踏まえて、小中一貫教育によって、今の教育改革の中で子供たちの教育にどれだけ責任を負える教育環境を用意することが出来るのかということです。教科担任制も「出来た学校からやります」という話ではないのです。教科担任と言うのは、単に中学校に入った時の不適応といった面だけではなく、学びの質が大きく変わります。論理的な思考が小学校から中学校になって突然変わってしまうのが、日本の教育の一番の欠点です。それを今、大きな教育課題としてやりましようと言っているわけです。それに乗り遅れるわけにはいきません。また、子供たちの自己肯定感や自己成長意欲を高めることも、今の日本の教育界で大きな課題となっています。最近、色々な調査をやっても、自己肯定感や自己成長感が最も低いのが日本です。そして、課題解決力が弱いというのも大きな教育課題です。そういう問題に対して、市川市は、あるいは高谷中ブロックは、どういう未来を子供たちに用意することが出来るのか、と言った視点を持っていただきたいと思います。解決しなければならないことはしっかりと解決する。しかし、これまで要望や指摘をしていたにもかかわらず、何も取り組んではいけないじゃないか、というところに留まっていたら、何も先に進みません。進めるためにはどうしたら良いのか、という事がこの検討委員会の仕事です。否定するのは簡単です。では「止めましょう」で終わりです。しかし、そうではないでしょう。どういう課題が出ようと、それをみんなが知恵を絞って、もちろん教育委員会に考えてもらったりすることもありますけど、我々が色々な視点で色々な考え方を出し合って、それを具体的な案にもらって、また皆で考える、そういう会にしないと、この会議が子供たちに付託された責任を果たすことは出来ないと思っています。ですから、是非次回では今考えられる範囲で具体的な案を出して、みんなで揉みながら、この地区の子供たちの教育のために小中一貫教育をどう考えたらよいのかを改めて議論していきたいと思っています。

○二俣小の児童の減少と言うのは、10年、15年先にはもう避けられない事実だというのは認識しています。分譲マンションが多いために、お子さんがどんどん成長していきますから、減少は避けられないのは事実だと思っています。ただ、通学に関しての具体的な解決策が一切示されていない点が、二俣としては先に進められない原因となっているのではないかと思います。ですから、その点を是非、どのように子供たちが学校まで通うのかという事を説明していただければと思います。先ほどの「ぐるぐる歩道橋」に関してですが、歩道橋改修に関して、市と話したのですが、この一貫校の問題があるために歩道橋は改善されないという事の回答を得ました。部分的な、階段とかをきれいにするという改修は行ったのですが、抜本的な歩道橋の改善は、この義務教育学校という話が出ていたために行う予定がなかったというのが事実です。ですから、この問題が解決しない限りは、歩道橋はどうにもならない問題になってくると思います。

○やはり事実関係をひとつひとつ示しながら、みんなで了解をする、合意をすることを積み重ねていきたいと思っています。